

相談支援センター 事業報告

平成 30 年度事業計画に基づき、以下の事業を実施しました。

	事業名	実施主体	職員体制
生活に関わる事業	基幹相談支援センター事業	久喜市	1名（専任）
	相談支援事業（委託、一般、特定）	久喜市	9名（専任1名、兼務8名）
	障害児等療育支援事業	埼玉県	2名（兼務）
	巡回支援専門員整備事業	久喜市・幸手市	2名（兼務）
	地域生活定着促進事業	埼玉県	2名（兼務）
	彩の国あんしんセーフティネット事業	埼玉県社協	2名（兼務）
就労に関わる事業	久喜市障害者就労支援事業	久喜市、白岡市、宮代町	3名（兼務）
	障害者就業・生活支援センター事業	国（就業）	5名（専任）
		埼玉県（生活）	2名（兼務）

< 相談支援実績 >

	生活支援	就労支援	定着支援	総数
登録者数（人）	586	904	-	1,490
相談支援件数（件）	1,895	5,441	305	7,641
職員一人あたりの年間相談支援数（件）※職員数 14 名	546			

< サービス等利用計画・モニタリング作成数 > (件)

サービス等利用計画	成人	128	児童	59
モニタリング	74			

1 事業報告

(1) 生活全般に関わる相談支援

ア 基幹相談支援センター事業

- (ア) 久喜市内の相談支援事業所を定期的に訪問するなかで専門的な助言・指導、地域課題の整理を行いました。
- (イ) 自立支援協議会の事務局を行政と共に行い、専門部会や人材育成のための研修を行いました。
- (ウ) 関係機関とのネットワークを深めて行くことと、自立支援協議会を更に発展させて行くことが必要となっています。

< 支援種別 > (件)

電話相談	外来	関係機関訪問	個別会議参加	指定特定巡回
87	10	14	27	48

イ 相談支援事業（委託、一般、特定）

- (ア) 久喜市の委託を受けて相談支援事業を行いました。
- (イ) 相談の傾向として、精神科受診や入院に関する内容・地域における生活技術に関する内容や、福祉サービス利用に関する内容が特に増加しています。
- (ウ) 課題としては、家族からの虐待ケースが増加し、より一層行政との連携が必

要になっていること、緊急時に利用できる短期入所・グループホームの不足等が見られました。

<支援種別> (件)

訪問	外来	同行	個別会議	関係者会議
577	362	291	62	67

<相談内容> (重複あり) (件)

福祉サービス	健康・医療	不安解消	家族関係	生活技術	余暇	権利擁護
1123	793	637	681	1338	187	44

ウ 障害児等療育支援事業（埼玉県）・巡回支援専門員整備事業（久喜市・幸手市）

(ア) 保育園、幼稚園、小・中学校を巡回し、保育士・教員に対して、発達に遅れのある児童への指導方法や環境調整について助言を行いました。

(イ) 相談の傾向として、発達障害の相談と共に、不登校やひきこもりの相談が増加しています。また、学校・幼稚園・保育園だけではなく、保健センター等からの助言依頼も増えて来ています。子供の発達に不安を感じた両親からは知能検査の依頼も多く見られています。

<支援種別> (件)

訪問療育	外来療育	施設への指導
1642	131	166

エ 地域生活定着促進事業「高齢・障害者などの累犯受刑者等の自立支援」

(ア) 矯正施設（刑務所又は少年院等）の出所予定者で、福祉的支援が必要な高齢や障害の方々の支援を行いました。

(イ) 平成 30 年度は 5 名の出所に向けた調整支援、出所後の刑余者 27 名のフォローアップ支援を行いました。

(ウ) 出所後の受入れ先施設について一部の事業所に偏ってしまったり、出所後に再犯・失踪等で継続した対応が困難なケースが複数ありました。今後は新たな受け入れ先開拓や、コーディネーターとしてより難しいケースに対応して行くためのスキルアップが課題となっています。

<支援種別> (件)

電話調整	訪問	同行	個別会議	関係者会議	出所・出院
152	65	40	15	33	5

(2) 就労に関わる相談支援

ア 市町村障害者就労支援事業（久喜市・白岡市・宮代町）

イ 障害者就業・生活支援センター事業

(ア) 主に利根保健福祉圏域（7市2町）に住んでいる障害のある方の就労相談及び就労支援を行いました。

(イ) 登録者及び就職者とも全体的に増加していますが、中でも精神障害・発達障害の方の数が増加傾向にあります。

(ウ) 平成 30 年度就職者の中で、1 年間離職せずに就労が続いている利用者は 88%

となっています（平成 28 年度就職者定着率 91%）。職場定着率が高い要因として、就労移行支援事業所等を利用して就労準備性が高められたことや、就労アセスメント・職場実習等を通して本人の適性を見極め、職場や仕事のマッチングがうまく図れたことが挙げられます。

<支援種別> (件)

来所相談	電話相談	職場訪問	他機関訪問	新規就職者	実習者
797	1917	2169	485	35	38

<登録者内訳> (人)

	平成 30 年度	平成 29 年度
身体障害	74	71
知的障害	526	514
精神障害	304	267
合計	904	852

<新規就職者内訳> (人)

	平成 30 年度	平成 29 年度
身体障害	0	1
知的障害	12	16
精神障害	21	16
合計	33	33

(3) 地域との連携

- ア 年 6 回、圏域に住まう在宅の障がいがある方の交流の場「みんなの会」をボランティアと共に運営しました。
- イ 緊急・困難なニーズに対しても対応出来るよう、日頃から地域の各事業（コミュニティーソーシャルワーカー研修、久喜市地域自立支援協議会、就業サポート研究会、久喜市精神保健福祉関係機関担当者連絡協議会等）に参加し、ネットワークを広げました。

(4) 人材の育成

- ア 毎月 1 回、事業所内で事例検討会を行うことで、相談員の知識と技術の向上に努めました。
- イ 視野を広げ、幅広いニーズに応えられるスキルを習得するために、各種外部研修に参加しました。

<参加研修（一部）>

研修名	主催	日時	場所	参加者
障害児等療育支援センター職員研修	埼玉県	8/7	障害者交流センター	大貫
虐待防止権利擁護指導者養成研修	厚生労働省	8/7他	大田区産業プラザ	袴田
障害者雇用サポートセミナー	障害者雇用総合サポートセンター	9/14	浦和PARCO	福島、井上、須田
就労アセスメントセミナー	JC-NET	9/20	大宮ソニックシティ	上野、井上、須田
基幹相談支援センター協議会担当職員研修	埼玉県	10/2他	ウェスタ川越	袴田・近藤
巡回支援専門員研修会	厚生労働省	10/3他	国立リハビリテーションセンター	新井
保育所・幼稚園等への巡回支援に係る研修会	埼玉県	10/4	発達障害総合支援センター	大貫

埼玉県災害派遣チームスキルアップ研修	埼玉県災害福祉支援ネットワーク	10/16	彩の国すこやかプラザ	上野
県南地域障害者雇用研究会	障害者雇用総合サポートセンター	11/16	浦和合同庁舎	須田
医療的ケア児等コーディネーター養成研修	埼玉県	12/14他	県民健康センター	新井
定着支援センター関東甲信越ブロック研修	全国地域生活定着支援センター協議会	12/18他	つくば国際会議場	上野
強度行動障害支援養成研修	埼玉県	1/29他	彩の国すこやかプラザ	近藤